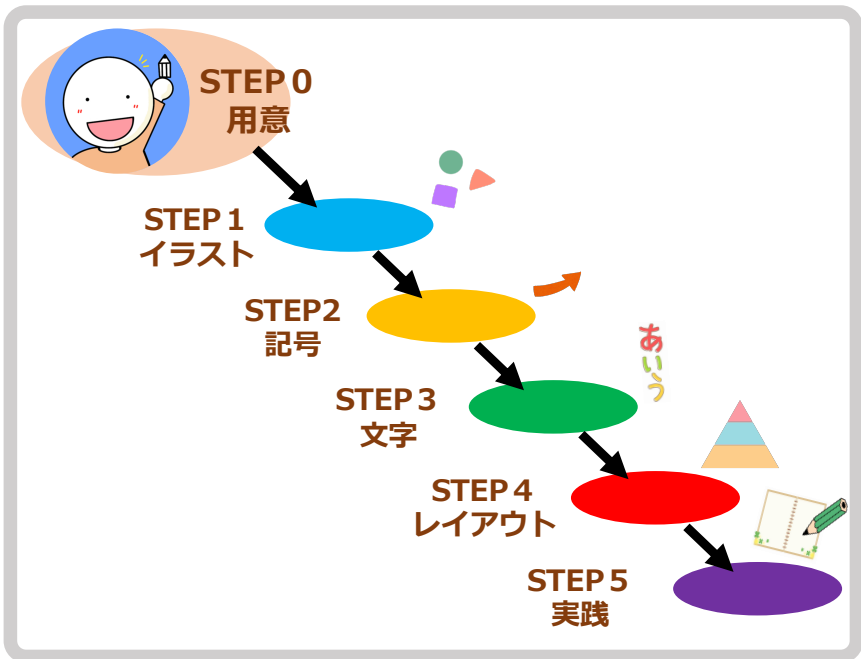


STEP 0

“用意するモノ”編 -ペンとノートの選び方-



自分に合ったツールを選ぼう！



たくさんあるツールの種類



グラログの授業を始めていきますね！
グラログでは「かく」ことが中心です。
じゃあ「かく」ためのツールって、どんなものがあるかな？

うーん。鉛筆とノート？あ！ボールペンとか画用紙もそうかな？あとは……、学校の黒板なんかもそうですか？

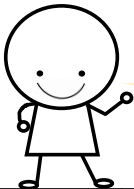


そうですね！他にもマジックやスケッチブック、ホワイトボード、最近ではタブレットなど、デジタルで書く人も増えているね。

本当に、た、たくさんありますね。……。
ツールを選ぶだけで、心が折れそうです。



心が折れるのが早いですよ！
まずは、下の表をいっしょに見ましょう。



たくさんあるね



かかもの	鉛筆 シャーペン	ボールペン	マジック	ボードマーカー
特徴 	書き直しはできるが、薄い、擦ると消える、疲れるという弱点あり。	個人でノートに書くなら ゲルインク のボールペンがおすすめ！かすれず速乾性があるから、スイスイかける。	マイネームやブロックー。目立つ、見やすいため大きな紙との相性が良い。画用紙や模造紙に書けばみんなで共有もできる。	ホワイトボードに書くマーカー。マジックと違って“消せる”が特徴。持ち運べるノート型のホワイトボードもあり、 会議や話し合いで活躍 します。
かけるもの	ノート	スケッチブック	画用紙 模造紙	ノート型 ホワイトボード
特徴 	大きさや質ともに種類がたくさん。学習用なら 一般的なB5 サイズかおすすめ。開いた時に フラットになる綴じノート を選ぼう。	イラストやアイデア をたくさん描く人におすすめ。1冊にまとめられ、やや厚めの紙なら裏書きしづらいため、マジックとの相性も良い。	会議などの話し合い で主に活用。持ち運びや掲示、保管できることが長所。書ける範囲が大きいいため、長時間の会議にも対応できる。	携帯できるホワイトボード。消せば何度でも使うことができる。



表になると、分かりやすいですね！



使う場面と自分に合ったものを選んでいきましょう。



いつもは鉛筆を使っています。



鉛筆もいいですね。特に小学生は、筆圧も考えて2B～6Bの鉛筆を使うのはおすすめです。ただ、鉛筆やシャープペンのデメリットも知ってきましょう。

デメリット…例えばなんですか？



①折れやすくて消えやすい ②正確な図やイラストを描きづらい
③ペンに比べると薄いから少し読みづらい ④手が疲れやすい など。
その人の筆圧や好み、シーンにもよりますけどね。

言われてみたら、分かる気がします。でも、使ってみたくけど、ボールペンは使ったことがないです。





ボールペンの種類の液の種類は大きく5種類あります。
油性・水性・ゲルインク・エマルジョン・消せるインクの5つです。

1つじゃないんですか？あ、消せるフリクションは知ってます！
油性・水性は何となく分かるけど、それぞれ違いがあるの？



それでは、次のページで見てみましょう！



かくもの	チョーク	デジタルペン ApplePencil	カラーペン
特徴 	先生のイメージ。慣れるまで時間がかかるが、側面も使えるので表現の幅が広い。ホルダーに入れて使えば手も汚れない。	最近はデジタルで書く人が増加。データ化できる、正確な図が描けるなど、とても便利。	目立たせたいところを強調するのにお手軽。たくさん使うと逆に見づらくなるので、赤・青・黄の3色がおすすめ。
かけるもの	ホワイトボード 黒板	タブレット	モニター ※接続や投影
特徴 	会議や授業の定番。大きく、みんなで見ることができる。上手く使えば、会議が突如あるものに大きく変わる。 →STEP 5.実践編	データ化できるため、他人との情報共有もカンタン。慣れるのに時間はかかるが、優れたノートアプリも多く、ノートの検索やフォルダ分けもできる。	手元を実物投影機でスクリーンに写したり、タブレットをテレビと接続したりすれば、画面を大きく見せることができる。オンラインでも活用できる。





ボールペンを選ぶ！



種類	インク	良い	欠点	グラフでの おすすめ度
油性インク		にじまない 文字が劣化しづらい	書き始めがかすれる インクのダマがよくできる	☆
水性インク		かすれない さらさら書ける	乾きづらい 水の弱くにじむ	☆☆☆
ゲルインク		にじまない かすれない さらさら書ける	インクの減りが早い	☆☆☆☆☆
エマルジョン インク	 + 	にじまない かすれない さらさら書ける	インクの減りが早い インクのダマができる場合あり	☆☆☆☆
消せるインク		書き直しができる	公的文書に使えない 高温になると消える	☆☆



インクは、色をつける「色素」+それを溶かす「溶剤」が成分です。溶剤が、油なら「油性」、水なら「水性」。粘り気が強い油はかすれやすく、さらさらしている水は乾きづらいのです。

「ゲルインク」と「エマルジョンインク」がすごそうです！



水性に工夫を加えたゲルインク、水性と油性を混ぜたエマルジョンインク。(プリンタにも使われる)フリクションも消える成分を配合したゲルインクです。水性・油性の「良いところ取り」で「にじまない」「かすれない」。ただ、インクの減りは早い。

どれも長所短所があるんですね。



「かく」ことを考えたら、おすすめはゲルインクです。さらさら書けて疲れないから、楽しく書けます。

その中でもおすすめはありますか？



よくおすすめしているのは《ぺんてる》の「エナージェル0.5mm、0.7mm」です。見た目もカッコいいし、種類も多いです。300円でおつりが出ますし、替え芯も数十円です。(2021年現在)

Pentel ENERGEL
ぺんてる エナージェル
ゲルインキボールペン



文房具店で見て来ますね！



試し書きができるお店もあります。お気に入りの一本が見つかるの良いですね。





ノートを選ぶほう！



次はノートです。
ノートはどのように選んでいますか？



直感です！気に入った色とデザインで選びます！
…ダメでしょうか……？



そんなことないです！「お気に入りのノートを選ぶ」は大切。
「1冊使い切るぞ！」と思ったけど、
使い切らずに次のノートを買ったことはありませんか？



コクコク（うなづく音）。そうです…。
「今度こそ！」と思って買っても、**使い切れません。**



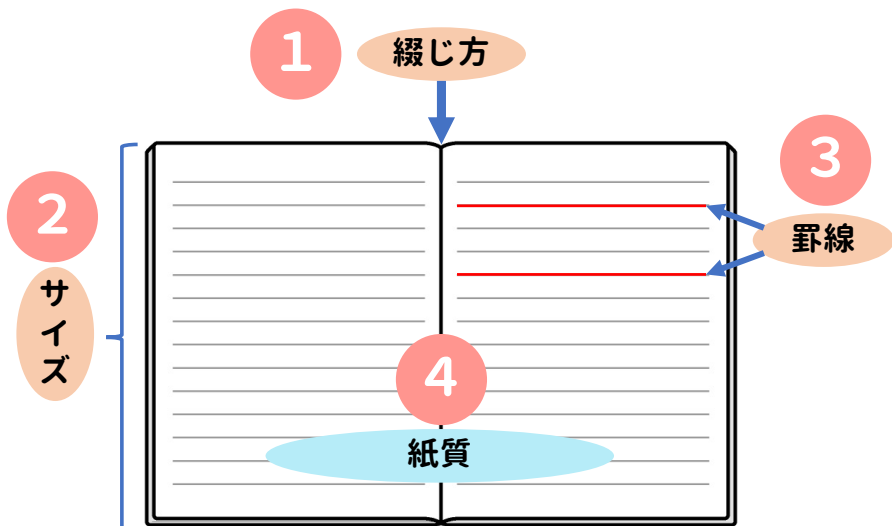
そういう方は多いですよ。使い切るのが目的ではないですが、
使い続けられるようにノートも自分に合ったものを選びま
しょう。ペンと同じように「使いやすい」「書きやすい」
ノートの中から、気に入ったものを選んでみましょう。



「書きやすい」ノートってどんなものなんですか？



ノートの種類を見ていきましょう。
①（綴じ方） ②サイズ ③罫線 ④紙質
の大きく4点で見ていきましょう！





ノートの綴じ方について。ノートは何十枚の紙を「綴じ」ています。その種類は2つあります。

なんだろう？



綴じ方

1

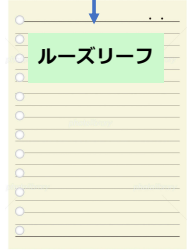


綴じノート



リングノート

ルーズリーフ



長所	<ul style="list-style-type: none"> 見開きで開ける コンパクトに収納 耐久性に優れている 	<ul style="list-style-type: none"> 折り返せる ページを切り離せる ルーズリーフなら補充可
欠点	<ul style="list-style-type: none"> 折り返しづらい ページが切り離せない 	<ul style="list-style-type: none"> リング部分が手にあたる 紙が薄いものが多い



糸や針金、接着剤で止める「綴じノート」
リングを穴に通して止める「リングノート」です。
ルーズリーフは取り外しが可能で、量が多い勉強に便利です。



ノートといえば「綴じノート」を浮かべる人が多いと思います。
上のような「大学ノート」と呼ばれるタイプが一般的ですね。

前から思っていたけど、どうして「大学」ノートなの？



東京大学の赤門前の「松屋」が手造りの洋式のノートを売り始めたのが始まりだそうです。諸説ありますが、東京「大学」の前で売られた「ノート」というのが有力かな。

1つかしこくなりました！



「綴じノート」は、見開きで使いやすだけでなく、コンパクトに整理ができて、耐久性が高いのがポイントですね。
お気に入りのノートカバーをつければ、自分だけのオリジナルノートにもなりますよ！

「リングノート」のポイントはありますか？

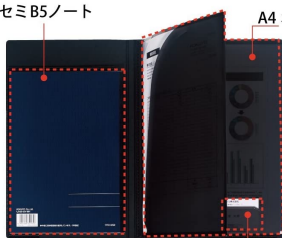


ノートカバー



カスタムオーダーファイル ON FILE

セミB5ノート



A4 ポケット

ノートカバー 書類ファイル付き ノー612B-D カードポケット



自分に合った色、機能を使えば、お気に入りのノートになる。ノートが長持ちするし、長く使える。お気に入りのを見つけることは、楽しく書くための工夫の1つ。



リングノートは「折り返せる」「切り取れる」
ルーズリーフは「つけ外せる」「順番の入れ替えができる」
がメリットです。

「綴じノート」は折り返すのは難しいですね。
取り外したら、バラバラになりますね汗



リングノートは、折り返しせば場所を取りません。立ったままのメモも取りやすいです。ルーズリーフは、入れ替え可能ですから、範囲の広い勉強に向いていますね。

リングは痛くないですか？



最近は柔らかい「ソフトリング」もあります。気になる場合は、使い分けると良いですね。例えば、
リングノート：メモをよく取る。コンパクトに使いたい。
ルーズリーフ：勉強の範囲が広い。入れ替えもよくする。
綴じノート：一冊を長く使いたい。見開きで使いたい。

自分のスタイルを考えるんですね。
どれにしようかな。



綴じ方以外も見てください。②サイズ ③罫線 です。

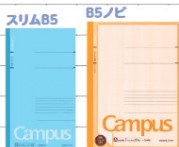
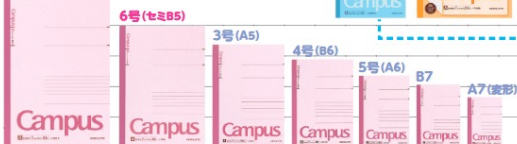
ノートのサイズ

ノートのサイズは、日本工業規格 (JIS) で決められています。
一般的にB5サイズと言われているサイズは、179×252mm
(セミB5)で紙のB5サイズ(182×257mm)より小さいサイズになっています。

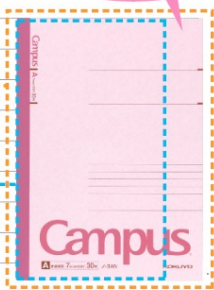
いちばん普及している
セミB5サイズ

規格	サイズ(mm)	規格	サイズ(mm)
1号(A4)	297 × 210	スリムB5	252 × 146
3号(A5)	210 × 148	B5	257 × 182
4号(B6)	182 × 128	B5/ビ	266 × 198
5号(A6)	148 × 105	A7変形	102 × 72
6号(セミB5)	252 × 179	B7	128 × 91

1号(A4)




セミB5
(定番)



出典元
株式会社エヌエスケイ



 <p>5mm</p> <p>あいうえお かきくけこ</p> <p>5 mm罫幅 C罫(細横罫)</p>	 <p>6mm</p> <p>あいうえお かきくけこ</p> <p>6 mm罫幅 B罫(中横罫)</p>
 <p>7mm</p> <p>あいうえお かきくけこ</p> <p>7 mm罫幅 A罫(普通横罫)</p>	 <p>6mm 7mm</p> <p>あいうえお かきくけこ</p> <p>ドット罫</p>

出典元：工具の通販モノタロウ



サイズは、こだわりがなければセミB5。あとは目的に応じて。
5mm (C罫) は幅が狭いため、**1行ずつ書き込む**のが良いです。
6mm (B罫) は一般的な幅です。読みやすいです。
7mm (A罫) は幅が広いため、**ゆったり**書き込めます。
ドット罫は、文字を**規則正しく**書いたり、
図形を書いたりするのに適しています。

一番基本的なのは、
「セミB5」「6mm」「綴じノート」ですね。



それを中心に、用途に合わせて選んでみましょう。
最後は、**④紙質** です。あまり気にしない人が多いです。

たしかに、あまりイメージがないです。



ノートの多くは「**上質紙**」。化学パルプ100%でさらさらと書けます。化学パルプの量が減ると「**中質紙**」になります。チラシなどは「**下級紙**」なので、それよりは良い紙ですね。

紙にも種類があるんですね。



ポイントは、
①書き心地 ②めくりやすさ ③裏写りのなさ ④耐久性 ⑤罫線の工夫
で選ぶと良いですよ。良い紙は、メーカーオリジナルが多いです。

どうやって調べたらいいですか？



文具店に行って、見本を実際に触ったり、めくったり、厚さを見ると良いですよ。インターネットの比較サイトもあります。「**ノートおすすめ情報サービス my best**」さんはおすすめですよ！

(my best) <https://my-best.com/87>



書きやすいものを選んだら、あとは好きな「色」「デザイン」で決めると良いです。

ノートを選ぶ時の見方が変わりそうです。
お店に行くのが楽しみです！



自分なりの「**基準**」があると、ノートへの思入れも変わります。
ぜひ、お気に入りを選んでくださいね。

あとのツールの話はしますか？



いえ、ペンとノートが決められたらOKです。
色の話やマジックについては、また別の章でお話します。

たくさん色を使わなくていいんですか？



色は多くても**4種類まで**がおすすめです。黒、赤、青、黄色など。
見づらくならない程度に使うと良いですよ。

たくさん使いすぎないようにしますね。

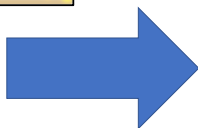
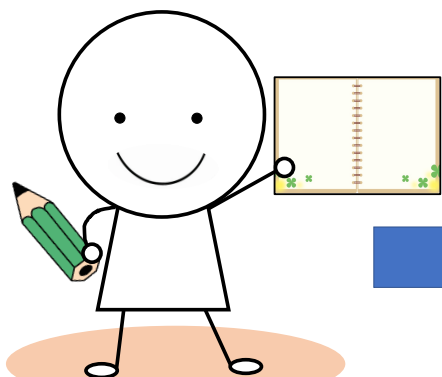


もちろんスケッチブックやタブレットを使っても良いですし、
人が多い時は画用紙やホワイトボードを使っていきましょう。
でも**記録の基本は、ペンとノートがあればOKです！**

分かりました！



それでは、準備ができた、ここからがログです。
STEP 1 イラスト編に進みましょう。



**STEP 1
イラスト**

